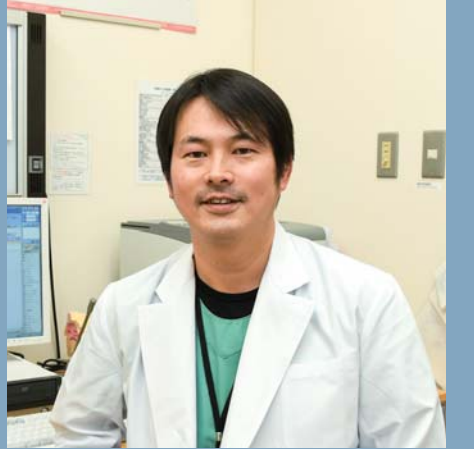
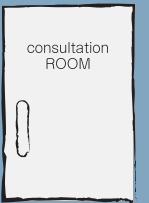


# 「好酸球性副鼻腔炎」についてご説明します。



耳鼻咽喉科 科長  
安原 一夫  
やすはら かずお

きょうは  
耳鼻咽喉科  
です



こんにちは  
診察室です。

## 好酸球性副鼻腔炎

### はじめに

慢性副鼻腔炎は、いわゆる蓄膿症のことであり、細菌感染などに伴って生じ、内服で改善しない場合には手術を行っていた疾患です。最近、慢性副鼻腔炎の中に主にアレルギーが関与して発症する好酸球性副鼻腔炎という、従来の感染などに伴って生じる副鼻腔炎とは異なった病態の副鼻腔炎が存在することがわかってきました。これは好酸球性炎症といって、鼻ポリープや副鼻腔の粘膜に好酸球というアレルギー性炎症の原因となる白血球の一種が浸潤を来す炎症で、血液中の好酸球の増加をしれば伴います。喘息を合併することが多く、好酸球性副鼻腔炎と

喘息は、好酸球性炎症の相互作用があり、お互いが干渉しあっているとされています。このように従来の慢性副鼻腔炎とは病態が異なるため、病態に応じた治療が必要となる疾患なのです。

### 診断基準

好酸球性副鼻腔炎は、血中の好酸球数の増加や、両側鼻ポリープの存在などからある程度予測はできましたが、正確な診断基準はありませんでした。最近、全国大規模疫学調査（JESREC study）が行われ、診断基準が作成されたことにより好酸球性副鼻腔炎の手術前の診断が可能になりました。細菌感染に伴う副鼻腔炎と比較して

### 副鼻腔炎と喘息の関係

喘息患者の4〜7割に副鼻腔炎を合併し、逆に副鼻腔炎患者の約2割は喘息を合併する、と報告されています。慢性副鼻腔炎の程度がひどいほど喘息も重症であると考えられており、これらのことから副鼻腔炎と喘息は、同じ気道という部位に生じる、一つの病態

(one airway, one disease) であると考えられています。また、喘息を合併している副鼻腔炎患者に手術を行うと、喘息の症状がある程度改善することが報告されています。つまり積極的な副鼻腔炎の治療は、喘息の治療としても有用ということになります。ただし、喘息を合併する副鼻腔炎患者の治療成績は、喘息非合併例と比較してやや悪いこともわかっているのが事実です。

### 治療

手術は内視鏡を用いて行う、内視鏡下鼻副鼻腔手術が中心です。それとアレルギーの関与という病態に基づいた、薬物治療が重要と

### ①内視鏡下鼻副鼻腔手術

多くの場合、内視鏡下鼻副鼻腔手術が必要になります。内視鏡下鼻副鼻腔手術が有効であることの報告は多くされています。

以前の副鼻腔手術は、歯茎を切開して上顎の骨を落として副鼻腔に至る手術が主流でした。この手術では術後の頬の腫れやしびれが残ることがありましたが、現在は内視鏡を鼻から入れて行う内視鏡

内視鏡下鼻副鼻腔手術の際の内視鏡所見



中鼻道にポリープあり



膿性鼻漏あり

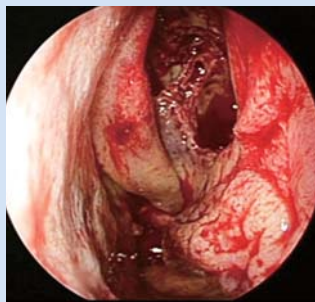
内視鏡下鼻副鼻腔手術所見



左鼻腔:手術前



右鼻腔:手術前



左鼻腔:手術後



右鼻腔:手術後

下鼻副鼻腔手術がほとんどで、患者さんの苦痛がたいぶん軽減されました。入院期間も短く、当院では基本的に5日間の入院としています。内視鏡下鼻副鼻腔手術では細い内視鏡で鼻の中を観察しながら、鉗子やデブリッターという掃除機のような器具を主に用いて、ポリープ、病的な粘膜などを除去し、副鼻腔と鼻腔を一つの部屋にします。これにより換気が改善され、炎症が抑えられると考えられています。

### おわりに

好酸球性副鼻腔炎の術前診断基準によって、病歴・診察所見・採血やCTの所見だけで診断でき、再発しやすい症例も予測できるようになりました。好酸球性副鼻腔炎において、内視鏡下鼻副鼻腔手術は有効な治療ですが、細菌感染に伴う副鼻腔炎と異なり、術後に引き続き薬物療法を行うことが再発予防のため重要と考えられています。

### ②薬物治療

副腎皮質ステロイドの点鼻薬と抗アレルギー薬のうち抗ロイコトリエン薬という種類の薬剤を併用します。副腎皮質ステロイドの点鼻薬は、内服や点滴などの全身投与ほど有効ではないとされていますが、副作用が少ないわりに効果が期待できるため、汎用されています。抗ロイコトリエン薬は、好酸球性副鼻腔炎の病態形成に重要な因子の作用を抑える薬物であり、薬物治療の中心となっています。

好酸球性副鼻腔炎の術前診断基準によって、病歴・診察所見・採血やCTの所見だけで診断でき、再発しやすい症例も予測できるようになりました。好酸球性副鼻腔炎において、内視鏡下鼻副鼻腔手術は有効な治療ですが、細菌感染に伴う副鼻腔炎と異なり、術後に引き続き薬物療法を行うことが再発予防のため重要と考えられています。

### ②経口ステロイド薬

副腎皮質ステロイド薬の内服や

鼻水・鼻つまり・においが分からないなどの症状がある方は、ぜひ、当院耳鼻咽喉科までご相談ください。